

# 和歌山県立和歌山商業高等学校における 短期・長期インターンシップの現状分析と進路に 関する実践的研究

## A Study on Analysis of Current Status about the Short and Long Term Internships and the Career Graduation in Wakayama Prefectural Commercial High School

吉 川 好 司

Yoshiji YOSHIKAWA

(和歌山県立和歌山商業高等学校 教諭)

佐 藤 史 人

Fumito SATO

(和歌山大学教育学部)

2017年9月15日受理

### 要約

本研究は、和歌山県立和歌山商業高等学校における短期インターンシップと長期インターンシップが、生徒の進路決定にどのような進路意識の変化があったのか分析した。短期インターンシップは、生徒の希望する事業所に関係なく希望しない事業所に参加した生徒も効果があることがわかった。長期インターンシップは、期間的に長く継続して就業体験をすることで、実習内容を具体的に深く学べる効果があった。インターンシップは、生徒が卒業後の職業・仕事を考えるうえで、インターンシップによる経験が気づき体験となり、生徒自身の進路選択に一定の効果が認められた。

**キーワード：**インターンシップ、就業体験、コミュニケーション、進路選択

### 1. 序

#### 1-1. インターンシップの背景

和歌山県立和歌山商業高等学校(以下、和歌山商業高校)では、「1998年・1999年度専門高校等と地域との連携推進事業」として、文部科学省(当時文部省)の研究指定を受けたのがきっかけとしてインターンシップを実施してきている。当時の研究では、専門の社会人講師の招聘やボランティア活動への参加、地域や企業等が実施するイベントへの参加なども行われていた。

当初のインターンシップの目的は、実施要項の中に「インターンシップを通して、和歌山商業高校と地元産業界をはじめとする地域社会との連携を推進していく中で、生徒の生きる力・勤労観・職業観の育成に努める。また、産業界及び医療福祉関係の進んだ知識や技術を習得させるとともに、これまで学んだ学習内容を深める」<sup>1)</sup>としている。また、期間は7月上旬、対象は3年生全員(360名)をA班とB班の各班2日間の実施であった。実習先は和歌山市内の企業及び医療福祉施設41事業所で受入人数は339人であった。

また、このインターンシップは現在まで継続して実施してきているが、1年生での実施や2年生での実施、実施時期も7月から2月へ、また現在の11月に、実習期間も2日から現在の3日に変更されてきている。

これは、その年の学校行事やカリキュラムの変更、受入事業所の関係による変更であった。

しかし、変更改善しながらも、現在まで継続してきたことは評価できる。

2008年1月の中央教育審議会答申において、現学習指導要領の改訂の趣旨には、職業に関する各教科・科目の改善の具体的事項として、特に教科横断的な事項の中に「将来の地域産業を担う人材の育成という観点から、地域産業や地域社会との連携・交流を通じた実践的教育、外部人材を活用した授業等を充実させ、実践力、コミュニケーション能力、社会への適応能力等の育成を図るとともに、地域産業や地域社会への理解と貢献の意識を深めさせる。」<sup>2)</sup>と示された。

その中で特に「地域産業や地域社会との連携・交流を通じた実践的教育と地域産業や地域社会への理解と貢献の意識を深めさせる」点において、和歌山商業高校では、2012年度から3年生の商業科目「課題研究」の講座で、長期インターンシップを実施し、インターンシップの充実・発展をさせた。「課題研究」は商業科の中心的科目であり、結果的に中教審の答申を踏まえることとなった。

## 1-2. インターンシップの先行研究

長期インターンシップについては、2004年2月20日に文部科学省が「専門高校等における『日本版デュアルシステム』の推進に向けて調査研究協力者会議の報告書」<sup>3</sup>が提言されている。その中で高校生が一定期間企業で働くこのシステムにどのようなメリットがあるか。の回答について次の3点が半数以上を占める。

- ①社会人・職業人としての生活態度や言葉使い、マナーを身につけさせることができる。
- ②実際に働くことを通して、勤労観、職業観を養うことができる。
- ③実践的で実的な知識・技能を学習・体験させることができる。

また、長期インターンシップの教育的効果として、新潟大学教育・学生支援機構キャリアセンターの高澤氏、西條氏の研究(2016年)で、学生の「行動につながる内面的な指針の変化」として、日々の習慣・学習行動の変化の一例を次のように示している。<sup>4</sup>

- ①他者との協働  
協働して成果の質を上げる意義や方法の理解
- ②目的意識と振り返り  
常に目的や求められる達成度を意識し、リフレクションによって自己点検するという行動パターンの実践
- ③時間管理  
時間の見通しを持って課題等に取り組む重要性の理解
- ④自主学習  
問題解決に必要な知識不足の実感

これはあくまでも大学生の調査であるが、このような変化がインターンシップの経験からの学びとして、また教育的効果として示されている。

この2つの研究は、インターンシップそのもののメリットや教育的効果の研究であり、生徒・学生の進路決定に関する研究ではない。

本研究では、生徒の進路希望から2つのインターンシップを通して、進路決定に至る生徒の意識の変化をトータルに見た観点で研究を進めたい。

## 1-3. 本研究の目的と課題

これまで、和歌山商業高校のインターンシップ全体の効果や制度、実施の形態や運営などの分析・研究を実施したことがない。そのため、インターンシップのメリットがあるのか。教育的効果があるのか。成果と課題を明らかにする。本研究は、インターンシップの現状を分析し、将来の進路決定に関して、生徒がどのように意識が変化したのかを特にインターンシップ報告書と長期インターンシップのアンケートを基に検証する。

## 2. 和歌山商業高校の概要

本研究の対象である和歌山商業高校は、1904年(明治37年)開校で和歌山県では伝統的で商業教育の中心的な高等学校である。また現在では県内唯一の商業高校になっている。和歌山市の中心地より西側に位置し、近隣には中学校・小学校・保育所や幼稚園があり、住宅街や各事業所にも囲まれている。卒業生の多くが和歌山市内を中心に地元企業に就職し、地域産業界で活躍している。

2016年度の生徒状況は、1学年321人(男子113人・女子209人)、2学年320人(男子96人・女子224人)、3学年354人(男子111人・女子243人)、25クラス(男子320人・女子676人・合計996人)で、83%の生徒が和歌山市内から通学している。<sup>5</sup>進路状況は、1994年を界に就職者数と進学者数が逆転し、2016年度は就職3割、進学7割になり、商業高校であるが進学者数が多くなっている。

特色は、2008年度入学生より「ビジネス創造科」に学科改編し、2年次から「ビジネス総合」「会計」「情報」の3コース制を展開している。

## 3. インターンシップの概要

### 3-1. 短期と長期の位置づけについて

短期と長期について、何日間が短期で何日以上が長期インターンシップと言えるのか定義はされていない。2012年度に文部科学省が行った調査で、「職場体験・就業体験(インターンシップ)」にあてる時間は、年間指導計画にどのくらい位置づけられているかという学校調査において、30日以上が0.3%、11~29日が1.1%、6日~10日が1.7%、2日~3日が36.9%である。<sup>6</sup>全国的にインターンシップの実施期間が2日~3日の学校が多いことが伺える。

参考に2014年度石川県商業教育<sup>7</sup>の中で、石川県立能登高等学校、金沢商業高等学校、大聖寺実業高等学校、小松商業高等学校のデュアルシステムの研究報告では、夏季休業期間の連続10日間を長期インターンシップとして概要の報告がされている。しかし、大学で実施されているインターンシップは、1ヶ月以上にわたる期間の実施で長期インターンシップに分類されている。<sup>8</sup>

和歌山商業高校では、後述するが2年生の3日間(9時から15時半)のインターンシップを短期、3年生の課題研究は週2時間ではあるが、5月から12月の約半年間(延べ約44時間)の実施であるため長期と位置づけている。

### 3-2. 短期インターンシップの概要

現在2学年で11月中旬に3日間(9時~15時半)、(本研究は2015年11月17日(火)から19日(木))インターンシップを学校行事として実施している。和歌山市内の事業

所を中心に近隣の海南市・岩出市の事業所を含めると毎年約100社の協力を頂き、2学年320名(9クラス時360名)を受け入れて頂いている。

短期インターンシップの目的は、「インターンシップを通じて、本校と地元産業界をはじめとする地域社会との連携を深めるとともに、生徒の生きる力、勤労観・職業観の育成を図る。また、産業界等の最新の知識や技術を習得させるとともに、これまで学んだ学習内容を深める。」としている。この目的は、1998年から変わってきていない。

事前指導・事後指導は、2学年の商業科目「ビジネス実務」(2単位)の担当教員が、授業の中で行っている。また、事業所との連絡や生徒の実習中の把握は、全教職員で対応し、事前訪問の打ち合わせの生徒引率と実習中の事業所訪問を行っている。

### 3-3. 長期インターンシップの概要

長期インターンシップの取組は、2012年度より3年次の課題研究の授業として実施している。企業実習関連講座としてホテル・保育園・社会福祉施設・病院等で実施している。この講座選択生徒は、毎年80人前後である。期間は、4月当初オリエンテーションを中心に校内で授業を実施するが、5月～12月の約半年間に渡り、各事業所に行き現地で事業所担当者からの指導を受け、実習を中心とした課題研究を行っている。授業形態は毎週火曜日と木曜日の5・6限の2時間連続した授業時間で、3学年を2分割し、実施している。

### 4. 短期インターンシップの希望職種

2015年度のインターンシップは2学年9クラス355人が参加した。その事業所と仕事内容から職種分類し、事業所受入人数と生徒が希望した第1希望の職種の数、実際に参加した職種の人数をまとめると次の表1のようになる。

事業所受入人数は、この学年では、381名で、人数的には一応全員がどこかの事業所に参加できることになる。

また、参加事業所の決め方については、生徒の希望(第1希望から第3希望)を優先しているが、人気のある希望事業所に偏りが出ている。特に表1から市役所・図書館やホテル・旅行関係の第1希望が受入人数の定員に対して多かった。逆に保安の職業として、消防署・自衛隊への希望は少なかった。この傾向は、男子生徒が少なく、女子生徒が多いということが考えられる。商業高校なので、当然販売職の事業所受入人数と希望人数は多いが、事務職の希望生徒が少なくなっている。2年生の段階では将来の仕事として事務職をあまり希望していないことも伺える。

希望が事業所の定員をオーバーした場合は抽選で決定することになっている。2015年度は355人中の第1希望

で決定した生徒が176人(49.6%)である。残りの179人が第2希望、第3希望に回っていることになる。残念ながら179人中90人(全体355人中25.4%)が希望した3つの事業所に決まらず、残っている事業所から再度選ぶことになり、担当教員のアドバイスもあるが、生徒にとってインターンシップに参加するまで受動的に考えているケースも見られる。

表1 2学年短期インターンシップ

職種分類	事業所受入人数	生徒の第1希望	参加人数
A 管理的職業	0	0	0
B 専門的・技術的職業			
保育・幼児教育	66	74	66
病院・看護	15	19	15
C 事務的職業			
一般事務	45	20	44
市役所・図書館	10	48	10
D 販売の職業	128	110	126
E サービスの職業			
介護職	24	6	17
ホテル・旅行	29	65	29
理容・美容	17	6	15
F 保安の職業	30	0	18
G 農林漁業の職業	0	0	0
H 生産工程の職業	11	3	9
I 輸送・機械運転の職業	3	4	3
J 建設・採掘の職業	0	0	0
K 運搬・清掃・包装等の職業	3	0	3
L 分類不能の職業	0	0	0
合 計	381	355	355

(職種分類は総務局統計局「日本標準産業分類」による)

このように、半数以上の生徒が第1希望の事業所に参加できていないが、短期インターンシップの目的から2つの考え方がある。一つは希望通りの事業所で、将来の進路希望との確認体験(自分の進路を再確認)。もう一つは、希望以外の事業所で発見体験(新たな仕事の発見)という考え方である。しかし、学年一斉に実施している以上、抽選により決定する点について、また、協力事業所の受け入れ人数について今後検討する必要がある。生徒の希望・ニーズと受入事業所の定員の関係について、和歌山商業高校の短期インターンシップの課題でもある。

### 5. 短期インターンシップの成果

2011年11月に文部科学省から報告された「高等学校キャリア教育の手引き」<sup>9)</sup>によると、インターンシップを実践している高等学校の報告書では、生徒のニーズに合ったインターンシップを行うことができた場合、効果が高いことが挙げられている。

和歌山商業高校では、このニーズをインターンシップ先の事業所への希望と捉えて見てみる。

インターンシップの効果については、インターンシップ実習報告書<sup>10)</sup>から、①事前学習のテーマおよび課



題(自己設定)と②事後学習で課題に対しての成果や③実習中の内容および感想や今後の課題として、生徒の記入している3つの項目について報告書を検証する。

①生徒のテーマ及び課題(自己設定・複数設定)として一人一人確認すると表2にまとめられる。

インターンシップ事業所の希望が第3希望まで決まらず、残っている事業所を再度選ぶことになった生徒の報告書を確認すると、和歌山商業高校では、希望通り決まった生徒と同様に②課題に対しての成果や③実習中の内容および感想や今後の課題などの内容からも特に問題(消極的な考え方や行動)はなく、逆に「初めての体験から、社会に出たときに役立つ内容を学べた」など生徒が将来の進路に向けて、効果があったことが実習報告書から伺える。

表2 生徒のテーマ及び課題(自己設定・複数設定)

課題設定項目	人数	割合
コミュニケーション力の向上	291	82%
勤労観・職業観の醸成	152	43%
積極的な行動	149	42%
学習意欲の向上	72	20%
身だしなみ・服装	14	4%
時間を守る	7	2%

短期インターンシップ参加355人

また、表2の課題設定項目が②課題に対しての成果や③実習中の内容および感想や今後の課題などの内容から、各項目の成果としても伺える。生徒のニーズに合ったインターンシップを行うことができた場合、効果が高いことが当然報告書からわかるが、和歌山商業高校においては、生徒のニーズに合わなかった生徒も効果があったことが実習報告書から確認できた。ただし、効果があった点については、あくまでも参加生徒の自己評価における記述内容からである。

生徒アンケート結果から見ても、実際に行ってみた仕事(作業)について81.8%の生徒がよかったとしている。また、インターンシップで学んだこととして、コミュニケーションやマナー、働くことの楽しさ・厳しさ、人間性やチームワークの大切さをあげている。

実習報告書の中から具体的にビジネスマナー・挨拶・コミュニケーションに関しては、人間関係形成能力の大切さを実感することができ、今後の学校生活に生かされるという成果がでている。また、将来に向けて勤労観・職業観も身に付いてきた様子が伺える。

反面、期間が短い分、体験内容や仕事内容が事業所で決められており、実務的なところまで体験ができていない事業所も見受けられた。また、アンケートからも学校や事業所に対しての要望で、「もう少し事業所を増やしてほしい」「もう少し期間を長くしてほしい」「事

務関係の事業所の数を増やしてほしい」「結婚式や音楽関係の受入人数をふやしてほしい」など、参加生徒の意見もある。

## 6. 長期インターンシップ

長期インターンシップが2012年から実施され5年経過している。しかし、短期インターンシップの体験内容や仕事内容について、不十分な点が長期インターンシップで補われているのか見てみる。

高等学校学習指導要領解説商業編では、「実習先については、地域の産業の実態を考慮して幅広く決定するとともに、実習に際しては、地域や産業界などと連携を図り、長期間の実習の導入や事前・事後の指導の充実などの工夫が必要である。」<sup>11</sup>とされている。

しかし、実習先について幅広く決定することは、課題研究の限られた時間割、受入事業所との地理的条件を考えると難しい課題である。

本校では実習先までの移動距離や時間・移動方法なども考慮し、さらに受入事業所の協力もあり、次の実習先を決定した。結果的に短期インターンシップの希望が多かった分野になった。

- ①ホテルアバローム紀の国(自転車10分)
- ②むつみ保育園(徒歩2分)
- ③砂山保育所(徒歩10分)
- ④新堀保育園(自転車15分)
- ⑤橋本病院(自転車10分)。
- ⑥河西田村病院(自転車30分)
- ⑦済生会病院(20分)

これは、限られた授業時間内で実習先において、できるだけ多く実習できるように検討が進められた。

長期インターンシップの各講座は、火曜(3学年4クラス)・木曜(3学年5クラス)に分けて、5限・6限(13時25分から15時15分)の約2時間の実習を5月から12月の期間実施している。

各分野の人数は、ホテルが6名・医療ビジネス25名程度・保育園15名の定員を設けている。短期インターンシップと同様に定員をオーバーした場合は抽選で決定するが、他の講座から回ってくることはしない。基本的に参加決定生徒はその講座を第1希望にしている生徒ばかりである。(例年希望者が多く抽選で漏れた生徒は長期インターンシップ以外の課題研究の講座を選択している。)

各分野の実習内容は、①ホテル・販売実習は、ホテル担当者から施設見学とホテルサービス業の現状を学ぶ。ビジネスマナーと接客マナーの基本を学ぶ。和食・洋食の会場で食器の出し方・下げ方を実践的に学ぶ。フロント前で和歌山商業高校の開発商品や県内商業関係の学校が開発した商品の販売実習で接客マナーを実践的に学ぶ。②医療ビジネスは、「健康安全」「奉仕」を中心とした諸活動の進め方を青少年赤十字から学ぶ。

医療現場で実習を通し、医療分野全般の現状と望ましい職業観や倫理観を学ぶ。医療系教育機関について学ぶ。救急法や医療現場での心構えを学ぶ。③保育園実習では、保育内容・機能・園生活の流れなどについて実践的に学ぶ。保育士の職務内容および役割に関して体験を通して把握し、保育技術を学ぶ。これらは、シラバスの学習内容に記入されている。

表3は、2学年の短期インターンシップに参加した職種分野と3学年の長期インターンシップに参加した生徒の人数をまとめたものである。

短期インターンシップで保育・幼児教育に参加した66人が、長期インターンシップでは、同分野の保育園実習に参加している生徒が13人いる。また、医療ビジネスやホテル販売の別の分野の長期インターンシップに参加している生徒も伺われる。

また、短期インターンシップで病院・看護の分野に参加した15人のうち、3分の2の10人が、長期インターンシップでも医療ビジネスに参加している。割合で見ると他のインターンシップより多いことが言える。

表3 短期インターンシップから長期インターンシップの希望の変化

短期と長期 インターンシップ参加人数	2学年短期 インターンシップ	3学年長期インターンシップ		
職種分類	参加人数	ホテル 販売	医療 ビジネス	保育園 実習
A 管理的職業	0			
B 専門的・技術的職業				
保育・幼児教育	66	1	11	14
病院・看護	15		13	1
C 事務的職業				
一般事務	44		2	2
市役所・図書館	10			
D 販売の職業	126	5	18	
E サービスの職業				
介護職	17		2	1
ホテル・旅行	29	4	5	
理容・美容	15	1		1
F 保安の職業	18		2	1
G 農林漁業の職業	0			
H 生産工程の職業	9	1	1	
I 輸送・機械運転の職業	3			
J 建設・採掘の職業	0			
K 運搬・清掃・包装等の職業	3			
L 分類不能の職業	0			
合 計	355	12	54	20

(長期インターンシップの太字数字は短期と同じ分野の参加人数)

2016年度参加生徒86人中64人のアンケートから、「長期インターンシップの講座を選択して良かったですか。」という質問では、93.8%の生徒が「良かった」・「大変良かった」と回答している。残りは「普通」と回答している。

## 7. インターンシップと進路意識の動向

ここでは、2年次のインターンシップに参加する前の希望から卒業時点の進路決定に向けて、2つのインターンシップと進路実現との関係を分析する。

2016年度卒業生354人中、就職は99人(家業・縁故で仕事内容不明は分類不能の職業として2名含む)また、進学は4年生大学106人、短大50人、専門学校93人、未定が6人である。

表4は3学年卒業時(2017年3月1日現在)の進路決定分野である。進学は大学と専門学校を含め学部・学科等の専攻分野を進路指導部の進路の道標を参考に分類している。

表4 3学年卒業時(H29.3.1)進路決定分野

就職は職種別分類	職種分類	人数	進学は学部・学科・専攻分野別	学部学科専攻分類	人数
就職は職種別分類	A 管理的職業		進学は学部・学科・専攻分野別	経済・経営・商学	59
	B 専門的・技術的職業			社会学・人間学	10
	保育・幼児教育			法学	2
	病院・看護	(一独専病院内に医療事務員)		会計・税理士	1
	C 事務的職業			情報教育	11
	一般事務	28		建築・工業	1
	市役所・図書館	1		保育・教育	27
	D 販売の職業	22		生活文化	21
	E サービスの職業			国際・語学関係・観光	10
	介護職	1		文学国学	4
	ホテル・旅行	6		食物・栄養	4
	理容・美容			看護・医療	71
	F 保安の職業	1		美容関係	9
	G 農林漁業の職業			調理・製菓	4
	H 生産工程の職業	33		動物	2
	I 輸送・機械運転の職業	2		デザイン・美術	6
	J 建設・採掘の職業			公務員専門	6
	K 運搬・清掃・包装等の職業	3		スポーツ	1
	L 分類不能の職業	2		未定	6
	合 計	99		合 計	255

(平成28年度卒業生354名の進路状況(進路指導部進路の道標より分類))

次に長期インターンシップの3つの分野(保育・幼児教育分野、看護・医療分野、ホテル・旅行分野)における短期インターンシップの希望から3年次の進路決定に至るまでの生徒の意識の変化を見てみる。

表5は、保育・幼児教育分野に関する希望生徒の動向である。2年次で保育所・幼稚園の短期インターンシップを74人の生徒が希望していたが、事業所の受入人数の関係で66人が参加している。残り8人が希望通りでない分野に参加している。しかし、3年の長期インターンシップでは、その中の6人が保育園実習に参加し、4人が保育・教育関係の進学をしている。当然短期インターンシップと長期インターンシップの両方参加した生徒は、14人中12人(85.7%)が保育・教育関係の進学をしている。また、長期インターンシップには参加しなかったが、短期インターンシップで保育・幼児教育に参加して、保育・教育関係の進路に決定し

た生徒が11人を含めると、最終保育・教育関係の進路を決定した生徒27人中全員が、保育・幼児教育分野のインターンシップに参加していたことが判明した。

表5 保育・幼児教育分野に関する希望生徒の動向

2年次希望	短期インターンシップ	長期インターンシップ	進路決定分野
B 保育・幼児教育希望生徒 74人	B 保育・幼児教育 66	長期IS不参加 40	経済・経営・商学 8
			販売の職業 3
			看護・医療 6
			生活文化 6
			国際・語学関係・観光 2
			生産工程の職業 3
			一般事務 1
			保育・教育 11
			ホテル・旅行 1
			医療ビジネス 11
			生活文化 1
		保育・幼児教育 14	生産工程の職業 1
			看護・医療 1
			保育・教育 12
			一般事務 2
	一般事務 2 保安の職業 1 介護職 2 理容・美容 2 販売の職業 1	保育・幼児教育 6	保育・教育 4
			デザイン・美術 1
			理容・美容 1
			生活文化 1
		長期IS不参加 2	経済・経営・商学 1

次に表6は、看護・医療分野に関する希望生徒の動向である。短期インターンシップでは、病院・看護系の受入先が15人と少ない点があげられる。これは、3年時の進路決定における看護・医療系に進んだ生徒数が71人と比較するとこの人数の差は大きい。2年次で看護・医療関係を希望した生徒が19人であるが、生徒の意識に関して2つのことが考えられる。1つは、受入人数が少ないため、希望していたが諦めて別の分野に希望を変更したのか、2つ目は2年次の段階で看護・医療関係をあまり希望していなかったのか。という点である。3年の長期インターンシップで54人が参加していることから、長期インターンシップの希望調査の段階(2年次終了時)で、生徒の進路意識が大きく変化していることが伺える。

また、保育・教育関係のインターンシップと同様に短期と長期の両方で参加した生徒13人が、看護・医療関係の進路に決定しているのもわかった。これについては、生徒の進路意識が短期インターンシップに参加する前から将来の進路目標を考えていて、両方のインターンシップに参加しても進路意識が変わらず、その目標通りの進路決定に結びついたことが伺える。

さらに長期インターンシップから参加した生徒の進路決定についても41人中の38人が看護・医療関係に進んでいることもわかる。逆に看護医療から希望を変更した生徒はわずか3人だけである。

表6 看護・医療分野に関する希望生徒の動向

2年次希望	短期インターンシップ	長期インターンシップ	進路決定分野
看護医療関係希望生徒 19人	病院・看護 15	長期IS不参加 1	保安の職業 1
			生活文化 1
		医療ビジネス 13	看護・医療 13
			一般事務 2
		医療ビジネス 41	看護・医療 38
			理容・美容 1
			食物・栄養 1
			生活文化 1
			販売の職業 7
			保育・幼児教育 5
			ホテル・旅行 2
			介護職 3
看護医療希望なし生徒 61人	看護医療希望なし 61	長期IS不参加 20	看護・医療 20
			生産工程の職業 2
			理容・美容 1
			一般事務 2
			生産工程の職業 1
			長期IS不参加 4
			医療事務 4
			販売の職業 1
			保育・幼児教育 1
			長期IS不参加 1

次に表7で、ホテル・旅行分野に関する希望生徒の動向を見てみると、短期インターンシップでホテル・旅行関係に希望した生徒は65人で、短期インターンシップの事業所の中では人気のある分野である。しかし、この分野においても受入先が少ないのも現状である。ホテルや旅行会社の体験に参加した生徒は29人で、その中で4人が長期インターンシップに参加し、1人がその分野に進路を決定している。これまで見てきた2つの分野とは、生徒の2年次での希望から進路決定までの間に、進路意識の変化した生徒が多いことが表7から見られる。

これは、ホテルや旅行会社からの求人が少ないことも言えるが、実際に両方のインターンシップを体験して、実際に将来の進路目標が変わってきたことが伺える。

また、ホテルや旅行分野に関するインターンシップを体験してもしなくても、進路決定先が多岐に分かれていることも見られる。

このことは、寺田盛紀著の『キャリア教育論』の中で、「将来の仕事・職業を考え、決定するうえでの効果的出来事に対する気づき体験の効果である。」<sup>12</sup>と述べていることが和歌山商業高校でも言える。

「気づき体験の効果」については、表8のアンケートの振り返りの感想からも伺われる。

2007年3月に国立教育研究所生徒指導研究センターから「職場体験・インターンシップに関する調査研究」の中で、

①インターンシップの実施により進路選択で効果が



表7 ホテル・旅行分野に関する希望生徒の動向

2年次希望	短期インターンシップ	長期インターンシップ	進路決定分野
ホテル・旅行関係希望生徒 65人	ホテル・旅行	長期IS不参加	国際・語学関係・観光 2
			生活文化 3
			デザイン・美術 1
			社会学・人間学 1
			美容関係 1
			経済・経営・商学 5
			一般事務 2
			生産工程の職業 4
			看護・医療 1
			医療ビジネス 5
	医療ビジネス	ホテル・旅行	看護・医療 5
			販売の職業 1
			経済・経営・商学 1
			生産工程の職業 1
	ホテル・旅行	8	ホテル旅行 1
			情報教育 1
			生産工程の職業 4
			美容関係 1
	販売の職業	長期IS不参加	美容関係 1
			分類不能の職業 1
			看護・医療 4
			ホテル旅行 4
希望生徒 65人	販売の職業	長期IS不参加	国際・語学関係・観光 4
			美容関係 2
			経済・経営・商学 2
			社会学・人間学 2
	保安の職業	26	公務員専門 1
			生活文化 2
			販売の職業 2
			一般事務 1
	理容・美容	6	医療事務 1
			生産工程の職業 2
			調理・製菓 1

表8

長期インターンシップの効果	人数	割合
実習内容を具体的に深く学べた	51	80%
進路目標への気持ちが強くなった	9	14%
礼儀やマナーが学べた	7	11%
前向きに考え行動することができた	7	11%
自分の実力を知ることができた	3	5%
別の進路を考えたが役に立った	1	2%
進路について視野が広がった	1	2%

長期インターンシップ参加者86人中64人回答(複数回答)

ある。

②実施日数の長期化によりさらに高い教育効果がある。

③事業所側の実施日数長期化への期待として、担当者の60%以上はインターンシップの効果をあげるための期間として、5日以上が適当であると考えている。

④他の進路学習との相乗効果と実施内容の深化がさらに高い成果を創造する。<sup>13</sup>と報告されている。

このことは、和歌山商業高校の短期・長期両方のインターンシップに参加した生徒が、進路目標(ここで

は、保育や看護師)に向けて、実習内容を具体的に深く学べることで、気持ちが強くなり、前向きに考え行動することで、進路を決定している。進路決定において効果があったことも判明した。

## 8. 結論

和歌山商業高校における短期インターンシップと長期インターンシップの現状分析をして、生徒が将来の職業を考えるうえで、インターンシップの経験・体験の中で気づき体験が影響していることがわかった。

短期インターンシップは、事業所の受入人数の関係で生徒の希望通りの事業所に参加できていない課題はある。しかし、第1希望でない事業所の職業体験・経験でも、参加した生徒に一定の効果があることが検証できた。

長期インターンシップは、短期インターンシップではできない、長期間的に継続的な就業体験として実習内容を具体的に深く学べる効果があつた。

特に医療ビジネスと保育園実習は、専門的な職業への試行的な体験であり、短期ではできない体験を継続することで、卒業後の進路について多面的・多角的に情報を集め、自分の能力・適性を的確に判断できたことがわかる。

2つのインターンシップの現状を分析することで、高等学校3年間で生徒が自分の将来に向けて進路意識の変化が、短期インターンシップの参加分野と長期インターンシップの参加分野から見ることができた。

その中で、進路希望から短期インターンシップの参加、さらに長期インターンシップの参加、最終進路決定までの一連の流れの中で、進路意識の変化が見受けられた。

今後の課題として、インターンシップに参加する生徒のニーズや受け入れ事業所の実習内容など、さらに体験の質を高め、生徒が積極的、意欲的に取り組める環境作りをしていく必要がある。

また、長期インターンシップについて、3つの分野だけであるが、さらに商業高校として、商業を専門とした分野のインターンシップも含め、本研究を継続して深めていきたい。

## 注

- 和歌山県商業教育研究会(2000)『和歌山県商業教育第32号』P15
- 文部科学省(2010)『高等学校学習指導要領解説商業編』P3
- 文部科学省(2004)『専門高校等における「日本版デュアルシステム」に関する調査研究協力者会議報告書』P16
- 京都大学高等教育研究第22号(2016)「長期インターンシップの教育的効果」P105
- 和歌山商業高校(2016)『平成28年度学校要覧』P18P19
- 文部科学省(2016)『変わるキャリア教育』小・中・高等学校までの一貫した推進のためにP85

- |   |   |
|---|---|
| <p>7 石川県高等学校商業教育研究会(2014)『石川県商業教育第52号』P15～P22</p> <p>8 文部科学省(2007)『平成19年度インターンシップ状況調査』P6</p> <p>9 文部科学省(2011)『高等学校キャリア教育の手引き』第2章第6節P114</p> | <p>10 平成27年度インターンシップ実習報告書</p> <p>11 文部科学省(2010)『高等学校学習指導要領解説商業編』P17</p> <p>12 寺田盛紀(2016)『キャリア教育論ー若者のキャリアと職業観の形成ー』P107</p> <p>13 国立教育研究所生徒指導研究センター(2007)『職場体験・インターンシップに関する調査研究』P10</p> |
|---|---|